

読売新聞 きょう（1月12日）のイチ押し

1面・3面など 在宅療養体制を強化

感染が急拡大している新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」対策として、岸田首相は、在宅・宿泊療養体制を強化することを柱にした「基本姿勢」を発表しました。病床の逼迫を避けるためです。

- ★ 首相はオミクロン株の特性について、「感染力が高い一方、重症化率は低い可能性が高い」とした上で、コロナ病床は重症者と中等症患者、そのリスクが高い人に重点的に割り当てると強調しました。
- ★ ワクチン3回目接種の前倒し対象は、医療従事者や高齢者だけでなく、一般にも拡大します。大学や中高の入試では、コロナで受験できなかった生徒に対し、追試・再追試の実施など柔軟な対応を求めました。

1面・経済面 東証プライム1841社

東京証券取引所が4月4日の市場再編に伴う全上場企業（3777社）の移行先を公表しました。事実上の最上位にあたる「プライム」は1841社で、東証1部に上場する企業（2185社）の約85%が移行することになりました。

東証は現在、1部、2部、マザーズ、ジャスダックの4市場があります。4月の再編では、国際的に活動する大企業を想定するプライムと、国内中心の「スタンダード」、成長が見込まれる新興企業「グロース」の3市場を作り、全上場企業を移行させます。

各区分の特性を一段と明確にすることで、海外マネーを呼び込む戦略でした。しかし、1部上場の大半がプライムに移ることになり、肥大化した1部を絞り込むという当初のもくろみは不発に終わりました。

他紙と比べて

青山学院大が6度目の優勝を飾った今年の箱根駅伝では、強豪校の圧勝の裏側で、中学教諭と教え子の「師弟リレー」の実現など記録に表れない、様々な物語がありました。この日の特別面では、師弟リレーに加え、優勝目前で逆転を許した前回の雪辱を目指してきた選手や、チームを支えた女子トレーナーという、3つの「アナザー・ストーリー」を紹介しています。